

事 項	ミカンキイロアザミウマが多発したバラ園における寄生の特徴と花器被害の回避法		
ね ら い	ミカンキイロアザミウマによる被害が多発した場合、薬剤の連続散布だけでは期待した防除効果が得られないことが多い。特に、バラの花では薬剤が内部に届かず、花器の内部で増殖し、次々と新しい蕾に拡散し被害が拡大する。今回、被害が甚大な場合のその後の花器被害の回避法を解明したので参考に供する。		
指 導	<p>1 バラにおけるミカンキイロアザミウマの被害状況</p> <p>(1) 被害が多発している園地では、外側の花弁や花弁の上の方で褐変（品種：ノブレス、サフィーア）や黒ずみ（ローテローゼ）が見られ、花弁の奇形やがく片の黒斑等も観察された。</p> <p>(2) がくの間から花弁がみえている状態の花では、がくに接する花弁で小斑点状に変色が見られた。</p> <p>(3) 葉では、ミカンキイロアザミウマによると考えられる被害はほとんど認められなかった。</p>		
参 考	<p>2 花のステージ別のミカンキイロアザミウマ寄生虫数</p> <p>(1) 花弁が開いている花では、成虫密度が極めて高く、幼虫も確認された。がくの間から花弁が見えている状態の蕾では、成虫のみが確認され、花弁が見えない蕾では、成虫・幼虫とも得られなかった。</p> <p>(2) 卵（4日後のふ化幼虫で推定）は、花弁先端が開いている状態から開き気味の花でかなり多かった。がくの間から少しでも花弁が見える状態の花では卵が見られたが、花弁が見えない蕾では確認されなかった。これは、採集時の成虫寄生の有無と一致することから、がくから花弁が見える段階で成虫が飛来し、産卵が行われたものと考えられる。</p>		
内 容	<p>3 花の部位別産卵数</p> <p>(1) 卵は、雄しべ及び雌しべでは全く確認できず、花弁先端が開いている状態の花でも、内部花弁が閉じているため産卵が行われなかったものと考えられる。</p> <p>(2) 花のステージが進むにつれ、内部の花弁からも卵が得られたが、これらの花では外側に近い花弁の間に隙間が見られ、成虫が潜り込んで産卵したと考えられる。</p> <p>(3) がく片内側からもかなりのふ化幼虫が見られたが、がく片に産卵されたものか、花弁に産卵された卵からふ化した幼虫かは不明である。</p> <p>4 ミカンキイロアザミウマによる花器被害の回避法 ミカンキイロアザミウマの被害が甚大な場合、花弁が少しでも見られる蕾は早急に処分し、花弁が見えない蕾を残し、以後適切に防除することで、それ以降、継続的に良品の生産が可能となる。</p>		
期待される効果	防除指導上の参考となる。		
利用上の注意事項	下草や施設周辺の雑草などは、ミカンキイロアザミウマの発生源となるので、除草あるいは防除を徹底する。		
担 当	フラワーセンター21あおもり 生産技術部	対 象 地 域	県下全域
発 表 文 献 等	平成12年度フラワーセンター21あおもり試験成績概要集 平成12年度東北農業成果情報（予定）、北日本病害虫研究会報第52号（予定）		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 バラの蕾のステージとミカンキイロアザミウマの密度 (平成12年 フラワーセあおもり)

花(蕾)の状態	ローテローゼ				ノブレス				サフィーア			
	調査 花数	寄生虫数1)		推定卵数2)	調査 花数	寄生虫数2)		推定卵数1)	調査 花数	寄生虫数1)		推定卵数2)
		成虫	幼虫			成虫	幼虫			成虫	幼虫	
1 花弁先端が開いている	5	15♀	10	238	—	—	—	—	5	72♀ 2♂	4	583
2 花弁先端が開き気味	5	27♀ 2♂	5	313	—	—	—	—	5	22♀	0	221
3 がく先端は離れている 花弁先端は開いていない	5	12♀ 1♂	0	122	5	2♀	0	14				
4 がく先端は交差している がくの間から花弁が見える	5	2♀	0	33	—	—	—	—	—	—	—	—
5 がくの間から花弁が見え始め	5	2♀	0	29	—	—	—	—	5	3♀	0	3
6 がくは接合 花弁は見えない	10	0	0	0	10	0	0	0	5	0	0	0
7 花弁は見えない (蕾径1cm)	—	—	—	—	11	0	0	0	10 葉3)	0 (3♀)	0 (0)	0 (0)
8 花弁は見えない (蕾径0.6~0.7cm)	—	—	—	—	12	0	0	0	—	—	—	—

採集地：名川町下名久井、大型硬質フィルムハウス

注1) 寄生虫数：花を持ち帰り、室内で払い落とし（4月28日調査）

幼虫の種類は不明だが、状況からミカンキイロアザミウマと判断

2) 推定卵数：採集花をビニール袋に入れ25℃下に置き、4日後にふ化幼虫数を調査（5月1日調査）
採集時は卵の状態と推定

3) サフィーアの「花の状態7」の蕾下の複葉から3個体の♀成虫を確認

表2 バラ（品種：ローテローゼ）における部位別のミカンキイロアザミウマ推定産卵

(平成12年 フラワーセあおもり)

花(蕾)の状態	調査花数	部位別推定乱数（カッコ内：その他を除く比率％） [4日後のふ化幼虫数を推定卵数とする]					計
		がく片	外側花弁1)	内部花弁2)	雄しべ雌しべ	その他3)	
1 花弁先端が開いている	5	22 (10.2)	176 (81.9)	17 (7.9)	0	23	238
2 花弁先端が開き気味	5	39 (14.6)	215 (80.5)	13 (4.9)	0	46	313
3 がく先端は離れている 花弁先端は開いていない	5	35 (31.0)	77 (68.1)	1 (0.9)	0	9	122
4 がく先端は交差している がくの間から花弁が見える	5	13 (40.6)	19 (59.4)	0	0	1	33
5 がくの間から花弁が見え始め	5	13 (46.4)	15 (53.6)	0	0	1	29
6 がく接合、花弁は見えない	10	0	0	0	0	0	0

注1) 外側花弁：花弁5枚

2) 内部花弁：外側から6枚目より内部の花弁（約25~30枚）

3) その他：花分解作業時に落下した個体、ビニール袋内で花以外に付着していた個体